



# 年頭のごあいさつ

熊本県国民健康保険団体連合会  
理事長 大西 一 史



令和4年の新春を迎えるにあたり、謹んで年頭のごあいさつを申し上げます。

保険者の皆様には、日頃から本会の事業運営につきまして格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

ご承知のとおり、新型コロナウイルス感染症については昨年も感染拡大が続き、県内においても医療提供体制がひっ迫するなど、一時は危機的状況に直面しましたが、皆様の基本的な感染対策やワクチン接種などにより新規感染者数は減少に転じ、昨年の年頭と比較しましても感染は落ち着いている状況です。医療従事者並びに保険者の皆様をはじめ感染症対策の最前線で多大なるご尽力をいただいているすべての皆様に、深く敬意を表する次第でございます。

さて、近年の国保を取り巻く環境は、急速な少子高齢化の進展に伴う年齢構成の高齢化や、加入者数の減少など構造的な問題に加え、医療の高度化による医療費の増加や、新型コロナウイルス感染症の影響による保険料（税）の減免など、更に厳しい財政運営が続いている状況です。

このような中、国においては、すべての世代が安心して生活できる「全世代型社会保障制度」の確立をめざし、様々な改革を進めているところです。

昨年6月に成立した健康保険法等の一部を改正する法律には、後期高齢者医療制度の窓口負担割合の見直しや、子ども子育て支援の拡充に加え、保健事業における健診情報等の活用促進などが盛り込まれ、本年4月より順次施行されます。

また、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現することとされており、保険者である市町村の取組への支援など、本会においてもその役割と責任を果たしていくことが強く求められております。

一方、本会の基幹業務である、審査支払業務については、昨年3月に厚生労働省・支払基金・国保中央会の三者で策定した「審査支払機能に関する改革工程表」に基づき、国保総合システムのクラウド化や、支払基金との審査基準の統一化及びシステムの共同利用による整合性及び効率性の実現に向け、国保中央会や全国の国保連合会と連携し取り組んでまいります。

本年も、保険者の皆様をはじめ、関係機関の皆様方から信頼され期待される組織として、円滑な事業の推進に取り組んでまいりますので、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が、コロナ禍を乗り越えて皆様が健やかに、明るく希望に満ちた素晴らしい一年となりますことを心から祈念申し上げまして、新年のごあいさつといたします。